

CAVOKV 航海日誌 2013 年 #4

6/7 (Ayvalik)~6/30(Guzelce)

2013 年 7 月 2 日 松崎義邦氏メール

皆様に

4 月初旬から航海を始めて、早いもので 7 月を迎えました。エーゲ海と云うと穏やかな夏の海を思い浮かべる方が多いかと思いますが夏の季節風メルテメが強く吹くシーズンになりました。

メルテメは北風の強風なので、その北風が吹く前にイスタンブールに入り、7 月以降はその北風に乗って南下する予定で航海してきました。クレタ島でのクラッチ故障で日程は大幅に遅れてしまいましたが、以降は順調に航海することが出来、6 月 17 日にイスタンブール近郊のヤロヴァに入港しました。

途中アイワルクではベルガマ遺跡を観光したり、ボズカーダ島では美味しいお魚を味わったり、そしてダーダネル海峡を少し入ったところのチャナッカレではトロイ遺跡も見学しました。

チャナッカレはイスタンブールの出入り口の港で船仲間の友人も出来、イスタンブールの情報も大分仕入れることが出来ました。同じイスタンブールを目指している艇があり 2 週間程一緒に行動をして楽しむことも出来ました。

イスタンブール周辺には沢山マリーナがあるのですが、何処にするか係留料と便利さを考えてチャナッカレで仕入れた情報をもとにアジア側のヤロヴァ・マリーナに僚艇と共に入港しました。

ここからはフェリーで毎日のようにイスタンブールの旧市街に観光に云ったり、バスでブルサの町を観光したり楽しみました。

そしてトルコの A 級を組織している Rihat さんにもお世話になり彼の経営するペンションの前のプチ・マリーナのブイにも訪ねてもらったりもしました。その後はヨーロッパ側のグゼルジェ・マリーナに艇を移し 7 月 2 日に来る正田さんを待つことにしました。

折角なのでイスタンブールの前のオスマン帝国の都であったブルガリとギリシャの国境に近いエディルネも観光してきました。どのモスクを見ても圧倒される豪華さと美しさでした。

新市街にある元ジェノバの居住地のガラダ塔からボスボラス海峡、金角湾、旧市街地を見ていると 1453 年のイスタンブール陥落の情景が目に見え始めるようでした。

当初予定していた黒海はクラッチ故障で遅れたため航海出来ませんでしたが、2 週間ゆっくりイスタンブールを味わうことが出来ました。

メルテメが吹き出すと 1 週間ぐらい強風が続きますので風とにらめっこしながら、細心の注意を払いエーゲ海を南下したいと思っております。

Istanbul Guzelce にて

航海日誌 2013年 #4

6月7日（金曜日）Ayvalik 快晴

12時にタクシーがポンツーンまで来てくれる。平田夫妻は約2時間30分かけてイズミールまで行き、そこから飛行機でイスタンブールに移動する。

平田夫妻とは3週間一緒に楽しく過ごさせて頂いた。百合子さんは料理が上手で美味しい料理をご馳走してくれた。

見送りしてから、我々はバスでペルガマに行く。1時間40分で到着する。バス停からインフォメーションセンターに行く途中で、タクシードライバーの呼び込みでアスクレピオン、アクロポリス、ペルガマ博物館を廻って3時間で80トルコリラでどうだというので75TLにまけさせタクシーで回ることにした。

各場所がかなり離れているので効率よく見るのに好都合であった。「地球の歩き方」では相場70TL位と書いてあった。

ここはアレキサンダー大王が無くなった後、彼の重臣だったリシマコスによって受け継がれ、その後ペルガモン王国として栄えたところだ。



アクロポリスは広大の丘の上に建てられトラヤヌス神殿には大理石の柱が15本残っている。又丘の上の急斜面を使った野外劇場は前方の景色が眼下に広がり素晴らしい見晴らし中にあった。

アスクレピオンは紀元前4世紀にハドリアヌス帝によって建設された古代の総合ヘルスセンターだが、ここにも野外劇場、石柱で囲まれた聖なる道の廊下とヘレニズム文化の集大成の遺跡を見ることが出来た。

最後にペルガマ博物館で収納された“水の妖精像”を見るが今までと違ったテーマの像で傑作であった。建造物や彫刻を見るだけで当時の文化の高さを感じた。

お昼にペルガマで食べたケバブが美味しくお腹もすいていなかったので夕食は温麺と冷蔵庫の残り物で済ませます。

6月8日（土曜日）Ayvalik～Babakale（31NM）快晴 微風～北北西 12～20 ノット

平田夫妻が下船され、今日から暫く悦子と二人の航海になる。

今日も天気が良く08:10にバツバカレに向け出港する。細い“松の廊下”の水路を通過して微風の横風を受けながら機帆走する。

バツバカレの手前から北西の良い風が吹き出した、この分ではこの風に乗ってバツバカレから 20NM 先の次の寄港地 Bozcaada まで行けると思い、バツバカレを越えて岬を廻ろうとしたら風は北北西に変わり風速も 15~20 ノット近くになり波も出てきてピッチングもするようになりコースも上り一杯になったので、ボズカードは諦めて当初の目的地バツバカレに変針して 13:50 入港する。

ここバツバカレは小さな漁村でパイロットブックに詳しく載ってなかったのが係留が心配であったが、港に入り係留場所を探しているとパイロットブックには載ってなかった岸壁の上で、ここに来いと人が合図してくれたのでそこにアロングサイドで舫う。風も強かったのが舫いも取ってもらい助かる。

お礼を言ったら港から直ぐの丘の上のホテルの人でホテルのレストランの名刺をくれたので夕食に行く旨約束をする。地元のヨットが漁船だまりに 2 隻係留しているだけで外来艇は我々だけであったが昼寝している間にイギリス艇が前に係留していた。

マリーナの横に小さな海水浴場があり久しぶりに泳いでシャワーを浴びる。

漁港で 12 歳ぐらいの可愛い少年が一人で炎天下のコンクリートの岸壁の上で立ったまま一人で黙々と漁網の整理をしていた。最初気が付いたのが 15 時ごろであったが夕方 19 時 30 分ごろまで同じ姿勢で黙々と作業をしていた。非常に印象的であった。

夕食は名刺をもらったレストラン“Denizhan”に行く。丘の上のホテルの屋上にあり眺望が素晴らしい。注文した前菜の盛り合わせは 6 種類あり、茹でエビ、焼きナス、ヨーグルトサラダ、空豆、その他野菜をそれぞれ違う味付けで出してくれた。どれも日本人好みの味であった。

グリーンサラダは我々の知らない緑の濃い野菜の盛り付け、イカのフライ、バルック・シシ(これはカジキマグロの切り身と野菜をケバフ風に串焼きにしたもの)を注文するがイカ、魚の鮮度と焼き方がとても良く美味しかった。

ビール、ワイン、デザート入れて 110TL(トルコリラ)そしてユーロでの金額も書いてあり 45 ユーロであった。港の上で CAVOK5 と夕日を見ながら素敵な夕食であった。

6月9日（日曜日）Babakale 快晴

今日も北の風が 20 ノット近く吹くのでバツバカレでもう一日停泊することにしてのんびり過ごすことにする。

朝食を昨夜食べたレストランで食べるがオムレツ、チーズ、サラダそして数種類のパン、4 種類のジャムがあり、美味しいトルコのパンと共に朝食を楽しんだ。ここのレストランで 9 時ごろから 11 時過ぎまでパソコンをしたりチャイやトルココーヒーを飲んだりして過ごす。

お昼は艇でパスタを頂き、昼寝した後ひと泳ぎして体を冷やす。昨日は 40TL 係留料の集金に来たが、日曜日なのか今日は集金に来なかった。

夜は同じレストランで夕日を見ながら食事を楽しむ。プチホテルの家族経営で感じの良い方々で美味しい食事と雰囲気を楽しめた。又食事に来たいレストランだ。

6月10日（月曜日） Babakale～Bozcaada（21NM）快晴 北北東 微風

昨日までの北風も収まり静かな海面になる。午後から北風が吹いてヘッドウインドになるので、短い距離だが午前中の東風を使ってと思い、朝早く0550に舳を解く。予定では東の風を受けてセーリング出来る予定であったが、生憎と微風で、機走で全行程 21NM を行く。

ボズカーダは、パイロットブックにはアンカーを打って槍着けと書いてあったがレイドラインがあり港のスタッフが舳を取ってくれた。0950の早い到着になったが、先ずはビールで乾杯してから港町に出かける。

この島はワインの産地として有名だそうなのでワイン屋を探して赤白それぞれ3本ずつ購入する。ついでに水も買って艇まで車で運んでもらう。小さな島の小さな港町だがしゃれたレストランやお店があり観光客でにぎわうリゾートアイランドの様だ。



お昼は木陰のあるレストランで鳥のケバブのサンドイッチを食べるが中身のみならずパンも美味しかった。

昼寝の後岸壁に椅子を並べてあるお店でトルココーヒーを飲みながらゆっくりする。

港の中の海も下まで綺麗に透き通っている。店の前が泳げるようになって子供たちが泳いでいたので、私も早速泳ぐ。

お天気の関係で明日ここを出港するが、もう少しゆっくり過ごしたい島だ。

モータークルザーで来たフランス人とイギリス人夫婦が、北から来たかと聞いてきた。彼らもこれからイスタンブールに向かうので北の情報が欲しかったようだ。我々もイスタンブールに行く旨伝えたら、彼らも明日 Canakkale に行く予定ということで一緒に行動になった。

6月11日（火曜日） Bozcaada～Canakkale（26NM）晴れ 東から北東 5～10 ノット

朝方から艇が揺れるようになってきた。風が東になりこの港は東に開いているので波が入ってきてその影響だ。

隣のモータークルザーと8時ぐらいに出ようと云っていたが艇の揺れが良くないので我々は 6:50 に舳を解く。舳を解いて出るとき両隣の大型モーターボートのムアリングラインが伸びていて横風を受けて出するのにそのムアリングラインが邪魔になり苦労する。

予定通り東の順風で当初は気持ちよく走るが1時間しないうちに風が弱まり機走にする。その後風が出てきたが北北東に回り真登りになりセーリングを諦める。ダーダネルス海峡は常に東から西に向かう(海峡の出口に向かう)潮が強く、海峡が狭まったところでは4ノット近い潮があった。出来るだけアジア側の岸よりを走るが近づくと浅いところがあり時々ヒヤリとする場面もあった。

海峡の狭いところでは対地速度3ノットぐらいまで落ちてしまった。向かい風だが弱い風で水面も穏やかで潮以外は問題なく海峡のエントリーを通過出来た。本船が多くアジア側が入る方の通路になっているので我々の脇を通過していく。彼らも岸よりを通り我々を抜いていくので、前方だけでなく後方への目も必要だった。

チャナッカレのマリーナに入るとマリーナのスタッフが所定の場所を指示してくれ12:15にいつもの様にスターン着けする。あまり大きなマリーナでなくヨットは10隻も居なかった。小粒のマリーナであるが施設がしっかりしていて又警察もあり安心なマリーナだ。

お昼は艇でサーモン・サンドウィッチをビールで頂き、早速町を歩くが、大きな賑やかな町で海辺の通りはレストランがずらりと並んでいた。暫くするとボズカーダで一緒になったフランス艇 Destinyが入港してきたのでレイドラインを取ってあげる。

トルコに入ると赤地に月が入る国旗が至る所ではためている。

スーパーマーケットと肉屋を見つけて食材を買って帰る。

夕食はマリーナのスタッフに聞いたケバブが評判のレストランに行きミックスのケバブを食べるが何とお店にはアルコールが無く水で食べる。スパイスの効いた味付けで肉とピデ(パンの一種、ピザ生地似ている)が合って美味しかった。ビールが欲しいところであった。ノンアルコールの店がトルコでは多いそうなので今後注意することにする。

6月12日(水曜日) Canakkale 曇り時々雨

昨日マリーナのスタッフにトロイ遺跡の行き方を聞いたら送ってあげるといふことをお願いしてあったが、ここから10km位のところにあるトロイ遺跡まで往復70€だといふことで断る。バスで行けば5TL(トルコリラ)250円だ。

隣に入ったDestiny号のJohn,Eva夫妻と一緒にトロイ遺跡を見学に行く。トロイ遺跡は小学校でシューリマンの話と共に親しみのある場所であったので楽しみにしていた。世界遺産になっているがギリシャ、ローマ遺跡と違い容としては残っていない。もちろん紀元前3000年前からの古いトロイの遺跡なので当然だ。トロイの木馬の再現が入り口に飾ってあった。ただ遺跡があるという感じだった。

チャナッカレの町に戻りJohn夫妻と一緒に食事をするがお惣菜さん屋さんみたいなお店で鳥のケバブ、トマトで煮込んだ野菜を食べるがスパイシーな味で美味しい。4人で何と20TL、庶民は安く生活できるようになっている。

マリーナに戻って Destiny 号の上でケーキとコーヒーをご馳走になる。彼はドラゴンも持っていて、大型クラシック・ヨットでも楽しんでいたので、これから通過しなくていけないのでイスタンブールへのアプローチの仕方を話す。向潮が 3 ノット、そして風は暫く北東の強風が続くので思案のしどころだ。

夕食は鳥腿肉のシチュー、サラダをボジカード産白ワインで頂くがジャガイモと鳥腿肉のシチューは良い味が出ていた。

6月13日（木曜日） Canakkale 晴れ時々曇り、雨

午前中 John に誘われて、イギリス船籍の3艇のモータークルーザーのキャプテン達と一緒に自動車の修理工場を中心にした店が沢山並んでいる工場団地に行く。特別必要なものはなかったが折角の機会なので行く。下町の小さな工場が多かったが機械に関するものはすべて揃うようなところだった。John は造水機の小さな部品を探していたが同じものが見つかった。

John の奥さんと悦子は町に買い物出かけていた。悦子はベットマット敷きとベットカバーを見つけてきた。今まで大きなサイズのベットマット敷きが見つからなかったがやっと探したという感じだ。

夜、John 夫妻を夕食に招待していたが工業団地に行った MARANKA 号の Tony、Margot 夫妻、AMIDA 号 Michael、Cynthia 夫妻も一緒に招待して大宴会になる。

悦子の料理は4人前のつもりで作ったのだが8人でビール、ワインを飲みながら夜中の2時過ぎまで盛り上がる。料理はペッパーのタパス、グreekサラダ、ムサカ、ガーリックライス、そしてデザートにトルコのお菓子バクラバ、サクランボを頂く。

MARANKA 号と AMIDA 号はイスタンブールから南下している艇なのでイスタンブールのマリーナ情報をいろいろ教えてもらう。

イスタンブールのバス、フェリーのパスカードを頂いたりした。皆さん大変親切で、Margot さんは日本人に英語を教えたこともあり日本にも来たことがあるそうだ。国に関係ないお付き合いが出来るのもこのヨット航海の大きな楽しみの一つだ。

6月14日（金曜日） Canakkale 晴れ時々曇り

大気が安定してないせいか、今日も積乱雲が発生している。今日3艇とも出港を予定していたが皆さん取りやめにしたようだ。積乱雲が気になる。

午前中 John 夫妻と買い物に出かけお昼に牛のケバブいりサンドウィッチを食べる。

マリーナに戻ってから Destiny 号でコーヒーとお菓子をご馳走になり明日からの計画について話す。彼とはイスタンブール迄一緒なので風と潮を考えながら寄港地を決める。結果ここから 53NM 先の Murefte に向かうことにするがダーダネルス海峡をまだ 20NM 走るので海流が強く時間がかかる場合は途中の Lepseki に寄港することにした。

我々は朝早く出るので彼らとは VHF もしくは携帯の SMS で連絡を取ることにする。

夕方コックピットでグラスを傾けていると昨日入ってきたニュージーランドから来たと言う45ftのカタマランの人が声を掛けてきた。同じ方向のイスタンブールに行くと言うことで我々の知った情報を交換する。

特にイスタンブール周辺には沢山マリーナがあり係留料も大分違うので長期に係留する場合はマリーナ選びが大事だ。我々も一番高いイスタンブールに近いマリーナには長い事係留せず、イスタンブールにフェリーで行けるマリーナを選択している。同じ方向なので再会するのが楽しみだ。

明日は5時半出港予定なので夕食は簡単にスパゲティーポモドーロを頂き早く就寝する。

6月15日（土曜日） Canakkale～Murefte（51NM） 晴れ後曇り雨（雷雲）

ダーダネルス海峡の向潮が強いので Murefte まで51NM だがプラス10NMして 61NM のつもりで行く。途中潮が強く進まないときは Canakkale から20NM 先にある Lapseki に目的地を変更するという打ち合わせを Destiny 号として行く。

朝 5:30 に舳いを解き静かな海面を機走する。

向潮を避けて岸近くを機走するがチャナッカレ付近の岸側は 1.5 ノットほどの反流があり 8 ノットでる。しかし長くは反流が続かず向潮になるが一部強いところで 2.5 ノットほどあったが概ね 1 ノット強の向潮で済んだ。

風は弱く全行程機走と機帆走になるが静かな海峡のヨーロッパ側を走るがゲリポリの町を除いては大農園が丘陵に広がり所々に村があり牧歌的な景色が広がっていた。ゲリポリは第一次世界大戦でトルコの英雄アタチュルク率いるトルコ軍が英仏連合軍を撃退したところだ。

ムレフテは電子チャートに載ってなく又パイロットブックも詳細が不備で適格の情報はなかったが東地中海ラリーでの寄港地になっているのとチャナッカレでの情報があったので心配はしていなかった。

港に入ると係留場所が不明でゆっくり探しているとハーバー管理人が来て指示してくれ舳いを取ってくれる。暫くして後から出た Destiny 号が到着する。町から離れた何もない殺風景なハーバーで単に東西に行く艇の中継点の役割をはたしているようだ。一応電気、水道があり一泊 40TL でそれなりの値段であった。

ついて暫くすると入道雲の端っこが通過して雨が降る。早めの出港は正解であった。

町がここから15分くらいのところにあり、歩いて行ってみる。途中海水浴場があったが水があまりきれいでなく、海岸も砂利であった。途中別荘地みたいな建物があったりしてイスタンブールの保養地と云う感じだった。葡萄酒の生産地で赤ワインが美味しいと云うことなので4本ほど購入する。

トルコに来てサクランボがあちこちで売っている。食べると甘くて身がしっかりしていて美味しい。今日も買って帰る。帰りはワインがあるのでタクシーで帰るが7TL(350円)だった。

夕食は持ち寄りにして Destiny 号でご馳走になる。悦子は牛コロステーキとチャーハンをこしらえて持って行く。Destiny では奥さんの Eva さんが前菜とズッキーニのトマト風料理を用意してくれた。

Destiny 号は CAVOK5と同じ14M だがトロラー型モータークルーザーなので中が広く木工も綺麗で良くできている。何とメイドイン中国だそう。

6月16日 Murefte~Silvri (51NM) 晴れ 無風後西の風5~10ノット

ムレフテとシリウリはイスタンブールに行くための中継基地として寄港している。丁度 50NM 置きにあるので丁度良い。

今日は Destiny 号と7時に一緒に出ることにしてあった。先に Destiny 号が出港して我々が続く。巡航速度が我々の機走の速度と同じ 6.5 ノットぐらいなので約 1NM ぐらいの距離を置いて進んだ。風が弱く全行程機走するが後半西の風が10ノット吹き出し機帆走で7ノット出た。

シリウリの港は漁港で大きな作業船と漁船でほぼ占められていたが先に入港した Destiny 号が空いた場所を見つけ岸壁に横付けしていた。15:15 他に係留場所が無いので Destiny 号に横抱きする。

John 夫妻と町に出て港の周りのレストランを探す。魚主体のレストランが港を囲むように並んでいる。木陰の店でチャイを飲んで引き上げる。大変賑やかな漁港の町だ。

夕食は Destiny 号で一杯ご馳走になってから4人で港の周りのフィッシュ・レストランを物色するがどうもこのレストランの並んでいる区域は、お酒は出してはいけないようでどの店もアルコールが無いとの事で諦め、直ぐ近くの別の並びのレストランに入る。

魚を見て注文したがオラーダ(鯛の一種)と鰯のグリル、カラマリもフライを食べたが新鮮で大変美味しかった。やはり魚は高くその他にサラダ、白ワインボトルを頼んで230TL(11500円)した。此方の食生活では高いクラスだがそれなりに美味しかった。

6月17日 (月曜日) Silvri~Yalova (53NM) 快晴 無風~西5~10ノット

今日も Destiny 号と一緒にヤロヴァに向かう。6:50に Destiny 号から舳いを解き出港する。午後に北の風が強くなる予報なのでこの風は追い風になるので期待しての出港だった。

途中で Destiny 号が追い付いてきてお互いの写真を撮りあう。時折吹く風に乗りながら機帆走で走るが昼過ぎから時折良い風になるのでセーリングを楽しんだ。

約 Destiny 号の一時間位の遅れで16時マリーナに入港する。直ぐマリーナのスタッフがラバーボートで誘導してくれ舳う。Destiny 号の舳いの場所が悪かったのと一緒の道中と云うことで後から CAVOK5の横に移動してきて隣同士になる。

Destiny 号のデッキ上でのビールを飲みながら夕方を楽しむ。夕食は悦子と二人で艇の舳ってある前のレストランで、赤ワインでお店特製のケバブとラムチャップを食べるが今までで一番おいしいケバブであった。後で知ったがここのケバブは美味しい評判の店だった。

6月18日 (火曜日) Yalova

朝7時30分発フェリーでイスタンブールの町に出る。マリーナの隣がフェリー乗り場で便利だ。行き約1時間30分、帰り1時間10分の距離にある。

偶然に昨日ヨット部同期の石橋さんの御嬢さんの治子さんが新婚旅行でイスタンブールに来たとの事で、朝一番で彼女らの泊まっているホテルを訪問する。生まれた時から知っている治子さんの幸せそうな顔を拝見して嬉しくなる。

残念がならイスタンブールは一泊だけでその日は記念の写真を撮る予定もあり、その後イスタンブールを発つとの事でゆっくりご結婚のお祝いは出来なかった。

その後我々初めてのイスタンブール観光の手始めに町一周の観光バスで一通り回る。丘の上から眺める金角湾、そして旧市街を囲んでいる城壁を見ると塩野七生著“コンスタンティノーブルの陥落”の当時の場面が目に浮かぶ。

ブルーモスク、アヤソフィヤを廻る。想像していた以上に壮大で美しかった。



ブルーモスクはオスマン朝の 1616 年に建設されたもので6本の尖塔を持ち内部は青を基調にしたイズニックタイルで飾られているオスマン建築の最高傑作の一つだ。

アヤソフィアは西暦 325 年にビザンチン建設の最高傑作としてローマ帝国の都をローマからビザンチンに移したコンスタンティヌス 1世が建設を始めた大聖堂だ。



皇帝の威信をかけて建設されたというが見事な建造物だ。何故建造物と表現するとその後 1453 年のコンスタンティノーブルの陥落後、スルタン、メツメット 2 世によってモスクに替えられてそして現在はアヤソフィア博物館と歴史の変遷の所以からだ。

ビザンチン時代のモザイクは漆喰で塗りつぶされたが 20 世紀になり壁のモザイク画が発見され素晴らしいビザンチン時代の遺跡を見ることが出来るようになった。

帰りは 17 時のフェリーで帰るので見学を切り上げフェリー乗り場迄歩きヤロヴァに戻る。

夕食は John さん夫妻を CAVOK5 に招待して、インゲンの胡麻和え、キュウリの浅漬け、五目寿司、鳥の照り焼き、そして日本酒と日本の味を味わってもらう。特に五目寿司、鳥の照り焼きは美味しいと人気があった。

6月19日（水曜日）Yalova

今日も 7 時 30 分発のフェリーでイスタンブールの町に出る。今日はトプカピ宮殿に行く。トプカピ宮殿はオスマン朝の支配者の居城として 1923 年トルコの英雄アタチュルクによってアンカラに首都を移すまで 400 年間政治や文化の中心であった。そこには膨大な秘宝が残されていた。

因みにアタチュルクはイスラム教での政治を政教分離して近代国家トルコを築いた今でもトルコでは国民に愛されている英雄である。

トプカピ宮殿では特にハレムの各部屋はイズニックタイルで飾られ装飾の美しさは素晴らしい。宝物殿には世界有数に大きいと云われている“スプーン屋のダイヤモンド”と云う 86 カラットの大きなダイヤを 49 個のダイヤが囲んでいる。

眩い光は誠に見事だ。又重さ 3 kg と云う世界最大のエメラルドのグリーンも素晴らしい。その他“トプカピの短剣”等々工芸の技術、贅を尽くした財宝、秘宝が並んでいた。イスタンブールはオスマン朝になってから一度も侵略を受けたことが無いので膨大な秘宝が略奪されることなく残っている。

お昼は A 級ディンギーの関係でトルコと連絡を取っていたヨット部 OG 江原さんから紹介を受けた奥村純子さんと地下宮殿の入り口の前で待ち合わせて、一緒に食事する。彼女はトルコ文化交流センターに勤めており、トルコについての著作もある才媛のある方だ。イスタンブール在住 18 年、大学でも教えているようだ。

お昼は彼女の勤めているトルコ文化交流センターがトルコの文化を伝承しながら新しい試みをしているお店に行き、素晴らしい作品が並んでいるビルの 5 階のレストランでトルコ料理を頂く。彼女の説明で色々頂くが茄子とひき肉を使った料理は特に美味しかった。トルコでは茄子が美味しく茄子料理が多いようだ。

今度の土、日曜日にヤロヴァから 10NM ほど北にある Tuzla と云うところに遊びに行く約束をして別れる。

その後我々はグランドバザールに足を運びこれまた膨大にお店が並ぶバザールを覗きながらフェリー乗り場に足を運ぶ。ヤロヴァは大きな町だが何とマリーナの近くの店では、アルコールを売ってなく仕方なくイスタンブールでビールを買ってリュックに入れて持って帰る。トルコではアルコールを好まない地域がありそこではアルコールが手に入りづらいとの事だった。

夕食はお昼が美味しく食べすぎたので、胃に優しく昨日の残りど花豆、昆布、つくだ煮そしてお茶漬けで頂く。

6月20日(木曜日) Yalova

今日も7:30のフェリーでイスタンブールへ。三日間ミュージアムフリーパスのカードを購入しているので最終日の今日も頑張って観光することにする。

フェリーの乗り場から電車で3つ目の駅のイスタンブール駅まで行く。今は走っていないオリエント特急の最終駅だが小さな鉄道博物館があるだけで当時の面影は感じられなかった。

その後楽しみにしていた国立考古博物館に行く。多くのオスマン朝時代の発掘品は英国、仏国に持ちされたそうだが、その後の発掘された出土品が展示されている。

アレキサンダー大王の石棺はじめ素晴らしい彫刻がされた石棺や、ギリシャ、ローマ時代の遺跡のコレクションが集められている。ここですっかり時間を使い足も疲れ切ったので昼食にする。

その後モザイク博物館でビザンチン時代の色鮮やかなモザイクを見て帰る。

流石に3日間毎日2万歩近く歩くと疲れる。

マリナーに着いてから John と私はマリナーにあるバーのテラスでビールを飲んで過ごす。

6月21日(金曜日)Yalova 快晴

ヤロヴァは便利なところでマリナーからフェリーもあり、バスターミナルも直ぐ脇にあり今日は John 夫妻とブルサ(Bursa)にバスで行く。約1時間でブルサのオトガル(町の郊外にあるバスターミナル)に着く。そこからタクシーで町まで行く。

ブルサは温泉とシルクロードの最終地点で有名なところだが思ったより大きな町で大変賑やか町だった。そしてエディルネに代わるまでオスマン帝国の首都であった。

ブルサを代表する緑のタイルの寺院 イェシル・ジャーミイ、ターコイズブルーの外壁が美しいイエシル・テュルベ等々を見て回るうちに時間が無くなり楽しみにしていた温泉地でのハمامに入ることが出来ず諦めて帰る。

夕食は隣の艇の Eva さんがフランス料理を作ってくれ Destiny 号のデッキでご馳走になる。ダックのグリルが美味しかった。

6月22日(土曜日) Yalova 快晴

ヤロヴァ滞在6日目になる。連日出かけていたので今日は CAVOK5 で整備兼ねて休養する。

右舷航海灯のカバーが接触して飛んでしまったので新しい航海灯に付け替える。又トルコはプロパンガスの規格が違ってコネクターが違うのでコネクターを町のガス屋さんで買って付け替える。ガスポンベは昨年クロアチアでミーティングしたトルコ帰りの“てまり”から譲って頂いたものだ。

6月11日のボズカードから今日まで一緒に行動をしたDestiny号のJohn、Eva夫妻と明日別れるので今晚 CAVOK5でサヨナラ会をすることにした。準備で悦子と町に買い物に出かける。町は大変活気があり何でも揃う小さな店が無数に集まった大バザールがある。

野菜市場で新鮮な野菜を買う。

明日はここから10NM程北にあるTuzlaに行く予定だが、ここはイスタンブール在中の奥山さんの知り合いのRihatさんがペンションを経営している場所で、そして彼はトルコの12フィッタークラスの会長でもある。

奥山さんが夕方ヤロヴァに来てくれCAVOK5で一泊して明日一緒にTuzlaに行く予定だ。

夕方彼女が来て、John夫妻と胡麻たれイチジク、野菜サラダ、いなり寿司、ラムチャップを頂きながら白、赤ワインを楽しむ。John夫妻とはトロイ遺跡、イスタンブール、ブルサ等あちこちと一緒にマリーナではハッピーアワービールを楽しんだり交互に招待し合って食事をしたり、大変楽しい旅行を2週間させてもらった。

6月23日（土曜日）Yalova～Turza（10NM）快晴 無風

マリーナ事務所が9時オープンなのでそれに合わせて清算する。6泊で375EURだった。イスタンブールのアタコイマリーナに停泊すると一泊120EURするので大分得した。

9時15分に隣に係留してあるDestiny号と再会を約してお別れして出港する。いつも長い事一緒にいた艇との別れはつらい。

穏やかな海面を当初東の風を受けてセーリングを楽しんだが1時間ほどでこの風も止まり機走でツヅラに向かう。

ここは半分マルマラ湾に開いた浅い入り江で小さなレジャーボートがブイに30隻位舫ってあるところだ。奥村さんが電話してくれたらゴムボートで迎えに来てくれてブイに舫ってくれた。

そのゴムボートで上陸してペンションで昼食を頂く。ペンションと云ってももともとこのオーナーのRihatさんの別荘をもとに棟を継ぎ足して作ったところだ。



Rihatさんは船が好きで庭には古い修理が大分必要なようなクラシックボートが数隻置いてありA級ディンギーは沖止めで3隻、庭には10隻以上置いてあった。

すべて木造艇で、ニス塗で綺麗に仕上がっていた。

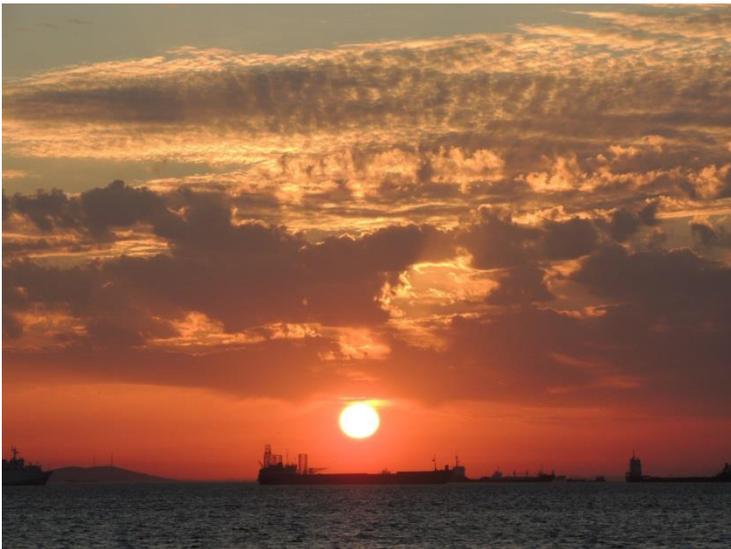
夕食は隣のシーフードレストランに行き魚を見てからカレイのグリル、魚の串焼きオードブルでスキのマリネ、オーベルジン、サバの燻製を注文してペンションに届けてもらう。

海辺のテラスで夕日を見ながらのご馳走に舌鼓を楽しむ。テンドーを借りて艇に戻りブイ舫いをしてるが用心のためアンカーも打ってから眠りにつく。

6月24日(月曜日)Turza 快晴

朝7時に奥村さんがここから事務所に行くので我々も一緒に車に乗せてもらい近くの Pendik の港で降ろしてもらう。

ここからフェリーに乗って一昨日まで居た Yalova に行き、そこからバスで再度 Bursa に行く。前回観光だけでハمامに入れなかったのが温泉町のブルサの Celik Palas と云うホテル内のハمامに行く。ここは奥村さんに教えて頂いたお薦めのハمامだ。



大変綺麗な一流ホテルのスパの感じのハمامでゆっくりお風呂に浸かったりサウナに入ったり、悦子はリラクスマッサージを私はタイ式マッサージを受ける。悦子は垢すりをしてもらったがタイ式マッサージは垢すりが無く残念だった。高級ホテルのハمامだったせいか料金は二人で 500TL(約 25000 円)した。

10時過ぎから15時過ぎまでハمامでゆっくりして帰りにトリとラムのケバブを食べて逆ルートで18時過ぎに帰る。

このオーナーの Rihat さんが今日遅く滞在先から帰ってくるとの事で明日朝食をご一緒にとのお誘いを受ける。

お昼が遅くなりお腹も空いてなかったので、夕食は艇で残り物を頂く。綺麗な夕日がマルマラ海に沈んでいった。

6月25日(火曜日) Tuzla~Guzelce (40NM) 快晴 無風から 20ノット迄

朝 7 時 30 分に陸に上がり Rihat さんとテラスで朝食をとる。

RihatさんはA級ディングーが好きで2週間前シシリアでA級のヨーロッパ大会に出てきたそうだ。成績が振るわず残念がっていた。10月にここツズラでA級の大会があるので是非参加するよう誘ってくれた。

彼も又日本でのA級の大会に是非出場したいとの事だった。2011年の大会では参加予定をしていたが都合が悪くなり行けなかったそうだ。

沖止めしてあるCAVOK5に彼が来て見学したのち9時30分にブイ舫いを解きGuzelceに向かう。今日は午後3時過ぎから北風が強く吹き始めるので先を急ぐ。

出来ればボスボラス海峡を覗いて行きたかったが遅くなりたくなかったので遠くに見て西にあるグゼルジェに向かう。

この海域はフェリーの往来が激しく360度ウオッチしながら機走する。途中帆走で2時間程走れたがその後風が止まり、予報通り3時過ぎから北風が20ノット位吹き始める。風が強くなる前の16:50にGuzelce marinaに入港する。

すべて施設が揃っているマリーナだがイスタンブールから少し離れているせいか静かだ。そして大きなモータークルーザーが沢山係留してあった。

町に出てみるが付近は新興住宅地で町はATM機もないほどちっぽけだった。

夕食はラムのグリルとインゲンの付け合せ、ラトーユそしてご飯を頂く。こちらに来て牛肉よりラムの肉の方が微妙な脂で味もあり美味しい。食後デッキでオンザロックのグラスを傾けながら、月見を楽しみ就寝する。

6月26日(水曜日)Guzelce

今日は艇でゆっくりする予定で午前中艇での作業をする。ここの町と交通機関を調べがてらお昼を食べに町に行く。ATMで現金をおろそうと思ったがATMもなかった

仕方無いのでバスに乗り近くの町に出てみる。降りたところがレストランもない商業地区だったので、次の町に又バスで向かう。結局着いた所がメトロと云う長距離バスのターミナルだったのでイスタンブール迄行くことにした。

イスタンブールでは金角湾を跨いでいる橋の下にあるお店でイスタンブール名物サバのサンドウィッチを食べる。今までサバをみて小さめで脂の乗りも悪そうなので食べる気がしなかったが名物なのでトライしたところ脂がのって大変おいしかった。

ここのお店もアルコールは置いてなくアイランと云うヨーグルト飲料を飲む。回教徒の国なので店の種類によっては出さないことになっているそうだ。

CAVOK5でボスボラス海峡に来ていないので遊覧船でボスボラス観光をする。

金角湾から出て黒海に向けて行はヨーロッパサイド、帰りはアジアサイドを観る。緑が多くヨーロッパサイドは所々オスマンが作った立派なパレスがあり 1453 年コンスタンチノーブルが陥落する一年前にメルフィット 2 世が建てたルメリ・ヒサルの城塞が巨大な塔と共に残っている。丁度ボスボラス海峡の狭くなったところにありボスボラス海峡を通過しようとするヴェネチア、ジェノバの船を大砲で狙ったそうだ。

そして両サイドともに豪華な屋敷が並んでいた。

帰りも ترام、バスを乗り継いで マリーナに帰るが途中スーパーマーケットに寄り必要な飲料水、食糧を購入して我々も一緒に車で艇までデリバリーしてもらう。

夕食は昨日の残りのラトーユのパスタとラムのグリルを頂く。

6 月 27 日（木曜日）Guzelce 晴れ

午前中雑用とデッキ洗いをする。お昼に讃岐うどんを冷やして頂いた後、自転車で 5km 程離れた隣町にレンタカーを探しに行く。ここグゼルジェは不便なところでマリーナの施設としては良くて係留料も安いが無何もない町だ。イスタンブールに出かけるのも 3 回ほどバスを乗り換えなくてはならない。

自転車で海岸線の道を走っていると両サイド高級住宅とリゾートハウスが並んでいる。海から見たビーチパラソルが並んでいたところだ。トルコに来ると経済が良いせいか新しい建築が目立つ。

レンタカーは明日にならないと空いているか分からないとの事、明朝電話で確認してあればマリーナまで届けてもらうことにした。悦子は一日中艇に留まりのんびりしていた。

夕食はワカメとキュウリの酢の物、野菜入りマーボー春雨、ハウレンソウのおひたし、そしてご飯を頂く。

6 月 28 日（金曜日）Guzelce 曇り

朝レンタカーを借りる。車でマリーナまで迎えに来てくれ隣の町のレンタカー会社まで行き手続きをする。一日借りて 100TL だった。約ここから 200KM 北のブルガリアとギリシャの国境沿いにあるエディルネ (Edirne) を訪ねる。

もともとは古代ローマ皇帝ハドリアヌスが町づくりをしたところで、1361 年にオスマン帝国ムラト 1 世が征服してブルサから遷都したところだ。そして 1453 年にマホメッド 2 世によってコンスタンチノーブルが陥落するまでの 90 年間、都として栄えた。

ここでの素晴らしい建造物はセリミエ・ジャーミーで当時の偉大な建築家ミマール・スイナンが設計したものだ。3 代のスレイマンに仕えた当時 80 歳の彼はセリム 2 世の要請でイスタンブールにあるアヤソフィアを超えるドームを造るということで直径 31.5m の巨大ドームを完成させた。

大ドームの装飾は素晴らしくトルコ随一の美しさを誇る堂々たる姿であった。イスラム建築の最高到達点のモスクと云われているが納得だ。セミアモスクとその社会的複合施設群と云うことで2011年に世界文化遺産に登録された。

途中有料高速道路を使ったが支払い方法が分からず難儀した。日本の ETC のようなシステムでカードを購入してそれをフロントガラスにつけて通過すれば良いと分かった。

この辺の土地は豊かで北海道に似たゆっくりした起伏の丘には小麦、そしてこのあたりの名物のひまわり畑が広大に広がっていた。ひまわりは一部咲いていたが満開になったらさぞかし素晴らしく美しい光景になるだろうと想像する。

お昼はエディルネ名物レバーのフライ(ヤブラック・ジェリ)、キョフテ、サラダを食べたが腹持ちが良かったので夕食は帰りも遅くなったのでご飯と残り物を頂く。

6月29日(土曜日) Guzelve 曇り

朝レンタカーを返しがてら隣町に行きそこからバス2回、トラム2回乗り換えてイスタンブールの新市街に行く。

レンタカーを返す時事務所の係員がトルコ語しかしゃべれず、彼が日本に6年間いて奥さんが日本女性という日本語をしゃべれる Bora さんを連れてきた。親切にバスの停留所まで車で案内してくれた。明日のお昼艇での昼食に誘う。

ボスボラス海峡に開けているドルマバフチェ宮殿を見学する前に海峡沿いにあるレストランで海峡の風景を見ながら昼食を済ませます。

ドルマバフチェ宮殿の見学は、自由行動は出来ずガイドツアーになる。1843年に着工され1856年に完成されトプカピ宮殿に代わって最後の皇帝メフメト6世が退去するまでオスマントルコの王宮として利用された。その後トルコ共和国の執務室として使われアタチュルクもここで執務した。

総面積約1万5000平方メートル、部屋は285室、広間は43室ありそれぞれ豪華に飾られている。儀式の間にはバカラ製の重さ4.5トンのシャンデリアが飾られ豪華絢爛たるものだ。あまりの豪華さにオスマン帝国時代の豪華絢爛主義は何であったのか考えてしまった。

その後地下鉄でタクシム広場に行くが少規模なデモが行われていたが整然としていた。

タクシム広場からボスボラス海峡に向かっての下り道が賑やかなショッピング街イスティクラール通りでお店を覗きながら歩く。途中で悦子はレイバン、わたしはオークレイのサングラスを買う。トルコはメガネが良く安いそうだ。

通りを下るとガラタ塔に上る。ガラタ塔は14世紀にこの辺りが居住区だったジェノバ人がビザンチン帝国の監視塔として使っていたものだ。



塔の上からは金角湾、ボスボラス海峡、トプカピ宮殿、アヤソフィア、ブルーモスクと一望出来た。全体像を鳥瞰図の様に見ながら1453年のコンスタンチノーブルの攻防戦が目に見えた。

帰りも乗り換えを4回してマリナーナに戻る。

一日5回のアーザン(礼拝への呼びかけの声)にも耳が慣れてきた。

今日も夕食は疲れもあってご飯、イワシの蒲焼、昆布で軽く頂き早めの就寝につく。

6月30日（日曜日）Guzelce 曇り

こここのところ晴れ間が出たり曇ったりの天気が続いている。

ヨーロッパの北にある低気圧からの前線のしっぽの端っこの影響の様だ。イタリアの友人からのメールによると、イタリア北部は不順な天気が続いてるとのことだ。

一日ゆっくりすることにする。昨日会ったBoraさんの奥さんから電話が入りお昼に坊やを連れて訪問に来るとの事。ソーメンと鶏肉とキュウリの和えものを用意する。

坊やはまだ生後2か月で、こちらでお産したそう。奥さんは石川県出身で、東京で知り合ったそう。まだこちらに来て1年との事でトルコ語は勉強中との事で感じの良い若夫婦であった。トルコの民芸品を輸出している仕事をしていてお土産にスタンドグラスが綺麗なトルコ風キャンドルランプをお土産に頂いた。

午後は「コンスタンティノーブルの陥落」を読み直す。実際見たところと当時の場面を思い浮かべて重ねながら楽しむ。

ここはランドリーが無いのでバケツで洗濯をする。

夕食はビーフステーキ、インゲンとシシトウのソテー、サラダを赤ワインで頂く。トルコに入るとお酒が高くなりウイスキーは日本の2倍近い値段でワインもギリシャみたいに安いワインは無い。

今反政府デモが行われているが現大統領がイスラム化を図る政策を進めているのも一つの大きな要因だ。アルコールも排除していく方針でもあり、酒屋が少ないのも政策の影響だ。

2日に来る正田さんにはウイスキーを買ってくるようお願いしている。

以上